

現場の意見を聞いた創生計画に

地方創生特委

尾村県議が質疑

県議会地方創生・行財政改革調査特別委員会が12日に開かれ、県が示した「スクラップ・アンド・ビルド」等に関して議論が交わされました。

日本共産党の尾村利成県議は、島根創生計画を策定する上で、市町村や関係者の意見を聞かず、政策が立案されていると指摘。今回の事業見直しについて「市町村や教育現場のニーズに反している。少人数学級編成など現場が歓迎しているもの

をスクラップ(縮小)し、現場が真に望んでいるビルド(拡充)となっていない」と強調しました。

尾村氏は、従来は現場の意見を聞いた上で政策の方向性を示してきたとし、県が一方的に拡充方向を示した放課後児童クラブについて「実施主体は県ではなく市町村。利用時間延長や待機児童解消の他にも、支援員の処遇改善など市町村によって拡充要望は様々だ」と述べ、「支援方法は交付金

事業を採用し、事業メニューの自由度を高め、市町村に判断を委ねるべき」と指摘。福祉と教育の撤回を求めました。

最低保障年金制度を国に求めて

年金者組合が県へ要請

全日本年金者組合県本部は16日、県に対し、



を一つの財源パッケージとする乱暴な手法は改め、少人数学級編成縮小案の撤回を求めました。全額国庫負担による最低保障年金制度の実現などを国に求めるよう要請しました。日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議が同席しました。県庁を訪れた河野哲雄委員長ら6人は「今でも少ない年金をこれ以上引き下げないでほしい」と次々に語り、「国への重点要望の中で『マクロ経済スライドの中止』などを

小松泰信名誉教授と対談

2年前の「隠れ共産党宣言」から今度の「入党宣言」で引つ張り風の小松泰信岡山大名誉教授



熱血・弁護士
仁比そうへい
西南の風

と感動と勇気の対談。

私も参院選で「あと一歩」の惜敗を確かな足掛かりに「くらしに希望を。3年プロジェクト」を始動して初めての再会でした。

詳しくは年明けの民報をご期待頂くとし、やっぱり大きな話題になったひとつが先の高知県知事選挙です。

「ここで一緒に生きよう。誰ひとり取り残さない県政を」というメッセージ(松本けんじさん)のメッセージが県民の心を一気に驚つかみにして猛迫したのは、西日本全域に通ずる生活と地



鳥取から九州に向かう

域の疲弊が切迫した現実だからでした。

共産党のマツケンが共同候補として推され、自ら保守と自認する広田一衆議が選対本部長を買ってでたことが象徴しているのは、一歩一歩前に進んできた野党共闘のいっそうの深まりです。その心張り棒として共産党が躍進することこそ希望の力――

「桜を見る会」問題。いよいよ窮地に立たされた安倍政権。みんなでスクラムを固め、スクラムの仲間をどんどん迎えましょう。来たるべき総選挙で必ず勝利を勝ち取りましょう。

(12月5日記)

すっかり求めてほしい」と要望しました。

また、県独自に加齢性難聴者の補聴器購入の公的補助制度を導入することや、高齢者の生活を守るために公共交通の確保

戦争で犠牲になるのは国民

第31回戦争体験を語り継ぐ集い

松江市で7日、「戦争体験を語り継ぐ集い」が開かれました。松江保健生協、新日本婦人の会などの主催。150人が戦争体験者の講演や朗読劇に聞き入りました。

に力を尽くすよう求めました。参加者は「耳が遠くなることで認知症が進む恐れもある。県として補聴器購入の補助制度を」などと訴えました。

対談した安来市・加納美術館の加納佳世子名誉館長は「これまでの歴史の上に今の自由と平和がある。私たちが語り継いでいかなければならない」と語りました。広島県立第一高等女学校1年生だった1945年8月6日に同級生223人が被爆し、亡くなった体験を語り続けている西尾幸子(さちこ)さん(87)らが朗読劇を披露しました。

地域の話題

外国人労働者に学ぶ場を 向田議員が要求

向田議員―外国人労働者が今後増えていくことが予想される。地域共生社会をつくっていく上でも、言葉や文化を学ぶ機会をつくっていくことは重要と考える。市としての考えや今後の計画を伺う。

市民生活部次長―在住外国人の方は昨年220人、今年285人と増加傾向。企業からの聞き取りでは日本語のスキルが課題と聞いている。現在、市では社日交流センターを窓口で週1回の日本語教室が開かれている。県や関係各所と連携を図りながら対応していきたい。

児童虐待防止を 伊藤議員が要望

伊藤議員―政府の提唱する「虐待防止プラン」では、子ども家庭総合支援拠点の設置、関係機関の連絡調整を行う常勤の職員の配置が決められています。オレンジリボン運動は「子育て中の親子に優しいまなざしを」などを提起しています。実現には自治体のアピールが必要で、役所の要所、町内のしかるべき場所に子どもの相談を受け付ける窓口の設置を求めます。

町長―保育所に在籍しない児童を含み、乳幼児から小学校入学までの子どもの安全確認、養育環境の把握は保健師が行っていく。(向田さとしの議会だより)より

三江線代替交通は 中原議員が質疑

中原議員―代替交通見直し年度になつていますが、その方針、視点はどのようなものか。

企画推進課―代替交通は維持することが基本。ダイヤを通勤・通学に配慮し見直す。代替交通を主経路として、これにつなぐことを基本に検討する。(中原保彦の議会報告)より